

サークルから **会員募集**

**TIC田無日本語教室**  
月4回水曜日 / 10時～11時半 / 田無公民館 / 月額200円 /

**柳沢英会話サークル**  
第1・3火曜日 / 19時～20時半 / 柳沢公民館 / 入会金2,000円・月額2,000円 /

**中国水墨画龍の会**  
月4回水曜日 / 13時半～17時 / 谷戸公民館 / 月額3,000円 /

**ピアノひけるよ会**  
第1・3水曜日ほか / 10時～13時 / 田無公民館ほか / 入会金2,500円・月額3,000円 /

**二十四式の会（健康太極拳と練功十八法体操）**  
毎週火曜日 / 14時～16時 / 田無公民館 / 入会金1,000円・月額800円 /

**パンジー英会話**  
月4回水曜日 / 18時40分～20時50分 / 柳沢公民館 / 入会金2,000円・月額4,000円 /

**韓国語への扉**  
第2・4水曜日 / 13時20分～18時半 / 田無公民館 / 1回1,000円 /

**タンポポの会（歌声サロン）**  
第1・3月曜日 / 13時半～15時半 / 田無公民館 / 参加費1回500円 /

**トリム ポピー（健康体操）**  
毎週金曜日 / 10時～11時半 / 総合体育館第2体育室 / 入会金1,000円・月額1,500円 /

※金額の記載がないものは無料です。

**10月1日号の原稿締め切りは、8月19日(金)です。**

**おたのしみ川柳** 今月のお題「虫」  
炎天下図書館籠る本の虫  
虫めがね拡大してもまだ見えぬ  
宅地化でかぶと虫には住宅難  
氏名・ペンネーム・住所・電話番号を記入の上、お近くの公民館に郵送、メール、持参でお寄せください。  
**10月号テーマ「スポーツ」**  
（「スポーツ」の文字を入れなくても構いません）  
締切 8月25日(木)

サークルから **催し物案内**

**「天皇の名のもとに 南京大虐殺の真実」上映会&意見交換**  
ピースナウ西東京&市民自治井戸端会議

8月20日(土) / 13時半開場・14時上映 / 柳沢公民館 / 定員50人(事前申込) / 参加費300円 / 8月2日(火) 10時より電話で右記へ /

**第15回定期演奏会**  
保谷弦楽アンサンブル  
9月4日(日) / 13時半開場・14時開演 / こもれびホール /

**来館時・講座参加時のお願い**  
●自宅での事前検温、マスクの着用、入館時の手指消毒にご協力をお願いします。  
●当日、平熱を超える発熱や体調不良がある場合は、来館をご遠慮ください。

**公民館運営審議会**  
傍聴をご希望の方は、事前に申し込んでください。  
時 8月17日(水)18時半～  
場 柳沢公民館  
内 事業計画・報告について  
申 電話で柳沢公民館へ

**利用者懇談会のお知らせ**

利用者のみなさんと一緒に、来年度の公民館主催事業やよりよい公民館の運営について考える利用者懇談会を開催します。どなたでも参加できます。定員に限りがあるため、参加を希望する公民館へ、事前にお申し込みください。

◆申し込み方法  
電話かメールで参加を希望する公民館へ

◆利用者懇談会日程

館名	月日	開催時間
保谷駅前	9月3日(土)	10時～
田無	9月10日(土)	10時～
芝久保	9月10日(土)	13時半～
谷戸	9月10日(土)	14時～
柳沢	10月2日(日)	10時～
ひばりが丘	10月15日(土)	14時～

**市民企画事業 / 事業案内**

**さがそう！夏の生きもの（夏休み親子自然観察会）**

西東京 自然を見つめる会  
親子で公園を探検し、昆虫などに手を触れ、夏の思い出にしよう。

時 8月27日(土) 9時半～12時  
※雨天の場合は翌日

場 西東京いこいの森公園  
※パークセンター集合

対 小学生までの子どもとその保護者(市内在住・在勤・在学者)  
※1組3人まで

定 30人(申込順)

講 東浜敬輔(パークレンジャー) 杉山俊也(パークレンジャー)

持 水筒・捕虫網・虫かご  
※長そで・長ズボン・帽子着用

申 8月8日(月)10時から電話で下記へ

連

**市民企画事業 第3回説明会を開催します**

公民館市民企画事業は、市内の自主グループが企画・運営する事業を、一定の審査の上、公民館が講師料を負担して、自主グループと公民館の共催事業として実施するものです。

この制度の利用を考えていて、まだ説明会に参加していない自主グループは、必ず、次の説明会に参加してください。参加する場合は申し込んでください。

時 ①9月7日(水) 10時～11時  
②9月8日(木) 19時～20時

場 柳沢公民館

申 電話で柳沢公民館へ



≡ニ紙面講座③ 「コッカ」の話 — ウクライナ編

「コッカ」といっても「国歌」のお話ですが、「国家」にも大いに関係のある話です。「国歌」は市民革命の最中のヨーロッパで生まれました。ルイ王朝を打倒したフランス革命は、すぐさま諸外国の攻撃を受け母国を守る戦争になりました。その最前線の地ストラスブールで『ライン軍の軍歌』としてルジェ・ド＝リール工兵大尉によって作曲されたのが、後のフランス国歌『ラ・マルセイエーズ』です。南部のマルセイユからの義勇兵がこの軍歌を歌いながらパリへ進軍したことから『マルセイユ人の歌』と呼ばれ、「自由、平等、博愛(絆)」のモットーと赤・白・青の三色旗と共にヨーロッパ中に広まりました。勇壮なマーチですが、「祖国」「武器を」「自由」「血」「倒せ」と過激な歌詞をマーチで鼓舞します。『ラ・マルセイエーズ』の影響は、「解放者」シモン・ボリバルの活躍によってスペインから解放されるラテンアメリカ、「諸民族の春」を迎えるバルカン諸国や「独立統一(リソルジメント)」のイタリアの国歌にも受け継がれます。国歌には、地名や独立の経緯と共に「永遠の自由と郷土」、そして「私たち」という言葉が歌い込まれています。国歌は、「領土、国民、主権」という国民国家の概念を人々の間に浸透させ、母国語で歌われることで国民の「統合」を訴える格好の歌でもありました。

継がれます。  
国歌は帝国主義によって広まります。植民地が独立する際には国旗と共に国歌が制定されます。どのような歌詞(言語)と音楽かをみると、国の「心性」が見えるのが国歌かもしれません。  
さて、ウクライナ国歌です。朗々とした最初のフレーズ「ウクライナの栄光も自由もいまだ滅びず」の旋律が繰り返され、「若き兄弟たちよ、我らに運命はいまだ微笑むだろう。我らが敵は日の前の露のごとく亡びるだろう。兄弟たちよ、我らは我らの地を治めよう」と続きます。最高潮のコーラスで「我らは自由のために魂と身体を捧げ、兄弟たちよ、我らがコサックの氏族であることを示そう」と繰り返されます。

キエフ公国が9世紀に成立したのち、ウクライナはモンゴル、ポーランド・リトアニア王国に支配されます。この頃から勇猛なコサックが共同体を作りますが、18世紀にはロシア帝国の支配下に置かれ、奴隷制とロシア化政策が進みます。民族独立運動への弾圧の中、黄と青の二色旗が独立のシンボルとなり、民族主義の詩人チュピンスキーのウクライナ語の詩に、司祭のヴェルビツキーが作曲し、1864年にリヴィウの劇場でこの歌が演奏されました。ロシア革命によりソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)の一員になっても、ソ連の圧政は続きます。1920年代の大飢饉では餓死者が400万にも上りました。ナチスドイツの侵攻の際はバルト三国と同じく独立蜂起も試みられましたが、ソ連の「大祖国戦争」の激戦地となり、犠牲者は800万人以上といわれます。

1991年、ソ連の解体後の独立により国歌として制定されました。短調と長調の交替する劇的な旋律は、自由への渴望と迫害の運命を暗示しています。ウクライナの人々は徹底抗戦を呼びかけるこの歌を歌い続けてきたので、近代脱兎(柳沢在住)